

独立型社会福祉士スーパービジョン方法への提案

ー独立型社会福祉士スーパービジョン支援ツールを用いたセルフ・スーパービジョンー

○ 関西福祉科学 御前 由美子 (07258)

安井 理夫 (関西福祉科学大・04944)、小榮住 まゆ子 (椋山女学園大・06307)

西内 章 (高知県立大学・03704)、伊藤 佳代子 (別府大学短期部・05334)

溝渕 淳 (広島文教女子大学・04505)、長澤 真由子 (広島国際大学・04935)

キーワード： 独立型社会福祉士、セルフ・スーパービジョン、支援ツール

1. 研究目的

独立型社会福祉士には社会的地位や評価を得て安定した業務遂行を続けるためにも実践の質を担保することが求められる。しかし、現状では、経済的な面を補うために社会福祉士以外の資格を用いた実践を行う独立型社会福祉士も少なくないことから、その実践が不明瞭になってしまっている。自身の実践を俯瞰するためにスーパービジョンが必要であると考えられるが、独立型社会福祉士のスーパービジョン方法については、これまであまり検討がなされてこなかった。そこで、独立型社会福祉士にとって最適であると考えられるセルフ・スーパービジョンに焦点をあて、独立型社会福祉士からのインタビューもふまえてエコシステム構想にもとづくスーパービジョン支援ツールの開発を行ってきた。

本研究では、支援ツールを用いた実証結果にもとづき、独立型スーパービジョン支援ツールを用いた独立型社会福祉士実践のためのセルフ・スーパービジョン方法を提示することを目的としている。

2. 研究の視点および方法

4名の独立型社会福祉士を対象に、SVシート①(「独立開業してやりたかった実践」、「その根拠・理由」「今、取り組んでいる主な実践」、「現在の収支状況」を記入)と独立型社会福祉士スーパービジョン支援ツールを用いてシートに即したインタビュー調査と支援ツールへの入力を行い、その結果のデータをもとにポイントの高いデータと低いデータ項目をSVシート②記入し、これらについて振り返った。そして、このような方法で実施した独立型社会福祉士のスーパービジョンについて考察を行っている。

3. 倫理的配慮

本報告における引用・参考文献等については、著作権保護もとづき研究目的以外に使用しないことを誓約するとともに、日本社会福祉学会の研究倫理指針を遵守し、先行研究を引用・参照した場合にはその存在を明示する。

また、聞き取りの内容については、研究目的以外に使用しないことを対象者に口頭で説明したうえで同意書への署名を得るとともに、アルファベットを用いて人物が特定されないように配慮を行っている。

4. 研究結果

①A氏

・代替の社会福祉士を探すことを日ごろから意識しておく必要性に気づいている。また、自分自身のストレスマネジメントはできているが、雇用する社会福祉士へのサポートの必要性も認識することができている。

②B氏

・利用者からの評価をフィードバックする方法を早急に考え実行にうつす必要性に気づいている。また、利用者の実感を重視する実践を特に意識して心がけていることにも気づくことができおり、地域ニーズの観点から地域アセスメントを実施する必要性が明確となっている。

③C氏

・職場や業務との関連性として、成年後見業務と経営が主な仕事であり、福祉に思いがある職員が集まっている職場である。業務上の質やリスク管理は実践を継続するためには欠かせない大切な取り組みであることを再認識している。また、政策提言についての活動ができていない現状について気づくこともできている。

④D氏

・職場や業務との関連性としては、専従者と2人の事業であることから、ストレスはあまり感じていないことを確認できている。また、認定社会福祉士としての人材育成の重要性についても再確認することができ、児童分野が弱点だということにも気づくことができている。

5. 考察

支援ツールを使用することで、独立型社会福祉士のセルフ・スーパービジョンが具体的に実施でき、可視化できたことから、様々なことに気づき、さらに今後の対応についても考えることが可能となっている。独立型社会福祉士として、長期的な視点から事業展開を考える際に、本支援ツールが新たな示唆を与えることが明らかとなった。このようなことから、独立型社会福祉士のスーパービジョンは以下のような方法で行うことができる。

①独立開業した理由などをSVシート①に記入する。

②独立型社会福祉士スーパービジョン支援ツールの質問項目に入力する。

③支援ツール結果を表示し、視覚化する。

④グラフ化されたデータから、実践の現状を把握する。

⑤把握した現状にもとづき、SVシート②にもとづき課題を分析する。

・2層のグラフデータから、「実践」と「経営」のバランスについて分析する。

・3層、4層、下位構成子のグラフデータから、それぞれの項目について分析する。

⑥SVシート①を再度確認し、やりたかった実践と現状とのバランスも鑑み、今後の方策を検討する。